

★ 一次救命処置の年齢別比較 ★



大項目	手技		成人(思春期以降) 年齢: 15歳超が目安	小児(1歳～思春期以前) 年齢は15歳程度、中学生までが目安	乳児(1歳未満)
	発見・通報	発見時の対応手順		<ul style="list-style-type: none"> 周囲の安全を確認する。 肩を(かるく)たたきながら、大声で呼びかけて、何らかの応答や目的のある仕草がなければ「反応なし」とみなす。 	
通報等		救助者二人以上の場合	<ul style="list-style-type: none"> 反応がない場合や、反応の有無に自信が持てない場合は心停止の可能性があるので、その場で大声で叫んで応援を呼ぶ。 誰かが来たら、その人に119番通報とAEDの手配(近くにある場合)を依頼する。 		
		救助者一人の場合	<ul style="list-style-type: none"> 自分で119番通報を行い、すぐ近くにAEDがあれば取りに行く。 		
		口頭指導	<ul style="list-style-type: none"> 119番通報をすると、通信指令員から行うべきことの指導を受けることもできる。 		
心肺蘇生法	呼吸の確認 (心停止の確認)		<ul style="list-style-type: none"> 呼吸は胸と腹部の動きを見て「普段どおりの呼吸か」を10秒以内で確認する。 呼吸がないか、普段どおりでない(死戦呼吸)場合は、心停止と判断する。また「普段どおりの呼吸か」どうか分からない場合も、胸骨圧迫を開始する。 反応はないが、普段どおりの呼吸がある場合は、様子をみながら応援や救急隊の到着を待つ。普段どおりの呼吸が認められなくなったら、胸骨圧迫を開始する。 		
	心肺蘇生法の開始手順		<ul style="list-style-type: none"> 普段どおりの呼吸がない場合、あるいは判断に自信がもてない場合は心停止とみなし、心停止でなかった場合の危害を恐れることなく胸骨圧迫から開始する。 		
	胸骨圧迫	位置	<ul style="list-style-type: none"> 胸骨圧迫の位置の目安は、胸の真ん中(左右の真ん中で、かつ、上下の真ん中)である(必ずしも衣服を脱がせて確認する必要はない)。 		
		方法	両手で	両手で(体格に応じて片手)	手指2本で
		深さ	約5cm沈むまでしっかり圧迫		胸の厚さの1/3までしっかり圧迫する。
		テンポ	1分間に100回/分～120回/分		
		絶え間ない胸骨圧迫	胸骨圧迫の中断時間は最小にすべきである。		
交代	<ul style="list-style-type: none"> 交代可能な場合は、胸骨圧迫の質が低下しないように1～2分間を目安に交代するのが望ましいが交代による中断時間をできるだけ短くする。 				
気道確保・人工呼吸		<ul style="list-style-type: none"> 救助者が人工呼吸の訓練を受けており、それを行う技術と意思がある場合は、胸骨圧迫と人工呼吸30:2の比で行う。特に小児の心停止では、人工呼吸を組み合わせた心肺蘇生が望ましい。 人工呼吸を行う際には、外傷の有無に関わらず、気道確保を頭部後屈あご先挙上法で行う。 吹き込みは約1秒かけて行い、胸の上がりを確認できる程度とする。胸の上りがわからなくても吹き込みは2回まで行う。また、手元に感染防護具があれば使用する。 			

救急安心センターおおさか

24時間・365日無休

- ・救急車を呼んだほうがいい？
- ・病院へ行ったほうがいい？
- ・近くの救急病院はどこ？
- ・応急手当の方法は？

など、どうしたらいいのかわからない、突然の病気やケガで困ったときは下記に電話相談して下さい！

#7119 または
06-6582-7119

小児救急電話相談

20時～翌朝8時

夜間子どもの急病時、病院に行った方がいいか判断に迷ったときは、こちらに電話相談して下さい！

#8000 または
06-6765-3650